

---

# 魔王

蒲生潤

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔王

### 【著者名】

蒲生潤

N7524A

### 【あらすじ】

尾張のうつけ、信長。彼は父信秀の葬儀でとんでもない姿で登場した。魔王と呼ばれた信長の生涯を描く。

## 一話 抹香

馬鹿げている。

行動が、である。

この男、自分の父親の葬儀に参加するなり、父の位牌に抹香を投げつけた。

馬鹿げているのは、行動だけではない。

荒縄の帯、長束の太刀と脇差、茶筌まきの髪。馬鹿げている。この男の服装も。

人はこの男をみて狂人だと思ったに違いない。事実この男は、周りからは「大うつけ（阿呆）」と呼ばれていた。しかし、この狂人はただの狂人ではない。

織田信長。

天下統一を目前にし、明智光秀の謀反に会い、本能寺で倒れた男である。

この狂人の名は織田信長。  
ここ万松寺で行われている、織田信秀の葬儀。この葬儀の喪主が信長。

喪主信長は、万松寺を去った。

信長が葬儀でした事は、父信秀の位牌に抹香を投げつるという愚考を行つただけである。

あの男が織田家を継ぐのか。織田家も終わりだ。  
家臣の誰もが思つたにちがいない。

18歳の若者は、青く澄み渡つた空を眺めていた。

すずやかな目、すらつとした高い鼻。背が高く、なかなかの美男である。

18歳の若者、信長の袖をつかむ者がいた。

「殿つ、あの様な事は下賤のものでも致しませぬぞ」

父信秀の葬儀の事以来、爺の平手政秀は以前に増して口づるすべ

信長の奇行を諫めた。

この口づるたさを不快に思つた信長は、政秀を疎むよつになつた。

そのうち、事件が起つた。

政秀の長男の五郎右衛門が、一頭の駿馬を持つていた。

「その馬を俺にくれ

欲しい、と思えば必ず手に入れようとするのが、この男の性癖である。

「無理なお願いでござるな

五郎右衛門は信長の要求を跳ねつけた。

この事件で父親の政秀も憎しみの対象となり、信長は政秀に会おうとしなくなつた。

信長は衝撃をうけた。

政秀が忠諫状を残して自殺したのである。

「爺つ、爺つ

信長は突如悲しみに襲われ、政秀の屍にすがりついて泣きわめいた。

その後も信長は政秀のことを思い出すたびに泣きわめいた。

奇妙な男である。

問題の奇行はやめないのである。全くもつて奇妙な男だ。相変わらず信長は今までと変わらない。

村の悪童達を集めて喧嘩したり、畠の食物を盗んだり、信長の奇行はやまない。

そんな信長を諫めてくれていたのが爺の政秀。しかし、政秀は信長に奇行を止めさせるために死んだ。

信長は政秀の事を思い出し、また悲しみにふけつていた。

そんなとき、美濃から舅斎藤道三からの使者がきた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7524a/>

---

魔王

2010年10月10日01時06分発行